

SHOW HHEYシネマレール

★★★

DESTINY 鎌倉ものがたり

2017年/日本映画
配給：東宝/129分

2018 (平成30) 年1月6日鑑賞

TOHOシネマズ梅田

Data

監督：山崎貴

原作：西岸良平『鎌倉ものがたり』
(双葉社アクションコミックス)

出演：堺雅人/高畑充希/堤真一/
安藤サクラ/田中泯/中村玉緒/市川実日子/ムロツヨシ/要潤/大倉孝二/神戸浩/國村隼/古田新太/鶴田真由/薬師丸ひろ子/吉行和子/橋爪功/三浦友和

■ショートコメント■

◆公式ホームページによれば、本作のイントロダクションは次の通りだ。



Introduction

シリーズ3部作の総興収112億円を突破した『ALWAYS 三丁目の夕日』チームが再集結！
老若男女、全世代の日本人が涙した、あの感動と驚きを超える
日本が世界に誇る山崎貴監督の最新作にして、最高傑作！

2005年公開の『ALWAYS 三丁目の夕日』で第29回日本アカデミー賞において、計12部門の最優秀賞を受賞し、のちにシリーズ化され13作総興収入り112億超の大ヒット記録を樹立。その後、『永遠の0』(13)、『STAND BY ME ドラえもん』(14/八木竜一との共同監督)で第38回日本アカデミー賞最優秀作品賞と最優秀アニメーション作品賞の史上初、実写&アニメ部門のW受賞に輝き、昨年末には、骨太な原作小説の映画化『海城とよばれた男』が大ヒットに導いた、日本映画界の至宝・山崎貴監督待望の最新作『DESTINY 鎌倉ものがたり』が、いよいよ公開を迎えます。

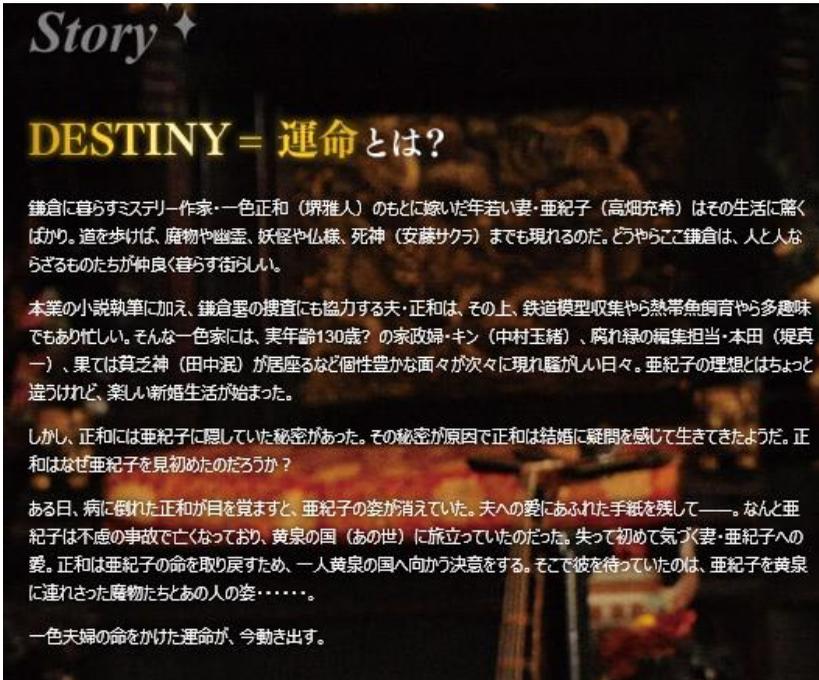
西岸良平氏のロングセラーコミック『三丁目の夕日』でVFXを駆使、昭和の懐かしい時代を完全再現した山崎監督が、『三丁目の夕日』と双璧をなす西岸氏の30年読み継がれた、累計発行部数850万部(既刊34巻)のベストセラー『鎌倉ものがたり』を描き、かつて誰も観たことのない日本映画最高のファンタジー超大作に挑みます。

主演：堺雅人×ヒロイン：高畑充希
全世代から愛される二人が新婚夫婦役で初共演！
そして、人間と人間ならざるものたちが仲良く暮らす鎌倉の街には、豪華俳優陣が集結！

主演には、これまで舞台、ドラマ、映画と幅広い分野で活躍、数々の賞を受賞し、TBSドラマ『半沢直樹』の爆発的ヒットからNHK大河ドラマ『真田丸』主演と、人気、実力ともに兼ね備えた堺雅人が誇りを持っての山崎監督初参加となります。本作では、鎌倉に暮らし、普段から和装を好み、鉄道模型や熱帯魚、骨董収集など多趣味なミステリー作家を演じます。ヒロインは、NHK連続テレビ小説『とと姉ちゃん』主演の高畑充希が出演。昨年公開の主演作品『植物図鑑 運命の恋、ひろいました』が大ヒット。また、NTVドラマ『逸秘譚のカオコ』で主演し高視聴率をマークするなど若手実力派として高い評価を得ている高畑が、堺演じる正和の年若い妻・亜紀子を演じます。

また、堤真一、田中泯、國村隼、薬師丸ひろ子、三浦友和といった実力派、山崎監督常連俳優から今回山崎監督初出演となる、安藤サクラ、中村玉緒まで超豪華キャストが集結致しました。

◆公式ホームページによれば、本作のストーリーは次の通りだ。



Story ✨

DESTINY = 運命とは？

鎌倉に暮らすミステリー作家・一色正和（堺雅人）のもとに嫁いだ年若い妻・亜紀子（高畑充希）はその生活に驚くばかり。道を歩けば、魔物や幽霊、妖怪や仏様、死神（安藤サクラ）までも現れるのだ。どうやらここ鎌倉は、人とならざるものたちが仲良く暮らす街らしい。

本業の小説執筆に加え、鎌倉署の捜査にも協力する夫・正和は、その上、鉄道模型収集やら熱帯魚飼育やら多趣味でもあり忙しい。そんな一色家には、実年齢130歳？の家政婦・キン（中村玉緒）、鷹の爪の編集担当・本田（梶真一）、果ては冥之神（田中涼）が居座るなど個性豊かな面々が次々に現れ騒がしい日々。亜紀子の理想とはちょっと違うけれど、楽しい新婚生活が始まった。

しかし、正和には亜紀子に隠していた秘密があった。その秘密が原因で正和は結婚に疑問を感じて生きてきたようだ。正和はなぜ亜紀子を見初めたのだろうか？

ある日、病に倒れた正和が目覚めると、亜紀子の姿が消えていた。夫への髪にあふれた手紙を残して——。なんと亜紀子は不慮の事故で亡くなっており、黄泉の国（あの世）に旅立っていたのだった。失って初めて気づく妻・亜紀子への愛。正和は亜紀子の命を取り戻すため、一人黄泉の国へ向かう決意をする。そこで彼を待っていたのは、亜紀子を黄泉に連れさった魔物たちとあの人の姿……。

一色夫婦の命をかけた運命が、今動き出す。

◆2010年のNHKの朝ドラは、『ゲゲゲの鬼太郎』の原作者である漫画家水木しげるの妻を主人公にした『ゲゲゲの女房』だった。たしかに水木夫妻の出身地、島根県安来市と鳥取県境港市には妖怪がよく似合う（？）が、なぜか古都・鎌倉にも多くの妖怪が住んでいるらしい。そんな西岸良平の原作『鎌倉ものがたり』の世界を『ALWAYS』シリーズ（05年、07年、12年）で有名な山崎貴監督が、お得意のVFXを駆使してスクリーン上に登場させた。さあ、その展開は……？。

◆本作のテーマは、ズバリ「夫婦の愛」。とは言っても、今どき流行の若者同士の純愛ではなく、長年独身を貫いてきたミステリー作家、一色正和（堺雅人）と、たまたまそこに原稿を取りに来た出版社の若手記者、亜紀子（高畑充希）との「年の差婚」における夫婦愛だ。鎌倉の古い民家に家政婦のキン（中村玉緒）と一緒に住む正和はなぜずっと独身を貫いていたの？また、なぜ正和と亜紀子は一目会った時から、互いの結婚相手はこの人だと直感したの……？

◆そこらあたりのストーリー展開は“想定範囲内”だが、本作の魅力は後半から大展開

していく黄泉の国の物語。その実像は一人一人の想像の産物らしいが、スクリーン上で見るそれは実に壮大。三途の川が広げれば、その高架の上を走る列車、江ノ電の風景も壮大。もちろん、一度三途の川を渡れば二度と戻れないのが常識だが、さて本作では・・・？

◆本作後半、黄泉の国で正和が「対決」するのは、古田新太扮する天頭鬼だが、本作には全体のストーリーを引っ張る死神（安藤サクラ）や中盤に面白い彩りを見せる貧乏神（田中泯）等の人間とは異質の存在が次々と登場するので、その面白い展開から目が離せない。さらに父親が浮気者だったため（？）自分の出生に疑問を持っていた正和の「出生の秘密」が明かされる後半のシリアスなストーリー（？）には、三浦友和が大きな役割を果たすので、それにも注目。

◆キネマ旬報の2018年1月下旬号によると、本作の初日、2日目の興行収入は順調で山崎貴監督の前作『海賊と呼ばれた男』（16年）対比で103.8%、東宝は30億円を越える大ヒットと発表しているらしい。製作費がかなりかかっているので、製作者サイドとしては「30億円以上は欲しい」そうだが、さて、その成り行きは・・・？

2018（平成30）年1月15日記